



第2弾

狙いは**利権**か!?! 川越市新斎場建設基本計画 強引さだけが**先行!** 事業費の概算すらなし!

資金面が白紙状態で「実質計画性」はゼロ! 事業手法も高コスト! そんな財政的ゆとりは無いだらう! こんな基本計画、最初からやり直せ!

川越市新斎場建設基本計画は、
事業総工費が算出されていないどころか概算すらも無い白紙状態。

川合市長の思惑のみが先走り、
新斎場建設準備室は返答にシンドロモドロで話にならない。

最近、本紙に「新規火葬炉1基設置で10億円」との情報がよせられた。関係企業・自治体に照会すると、「事業総工費の中に含まれるのではっきり分からない。」「あえて算出するのであれば、事業総工費を火葬炉の数で割ってほしい。」という不明瞭な回答ばかり。

これでは行政による事業費の恣意的操作が可能で、利権の温床になる恐れがあると考え新斎場建設準備室に確認したところ、驚くべき事実が発覚。何と市は本年4月公表の「川越市新斎場建設基本計画」作成に伴い、事業総工費どころか概算すらも算出しておらず、資金面が白紙状態の「実質計画性ゼロ」であったのだ。加えて、事業手法もわずか1ページ弱の説明で、最もコストが高くなる「従来方式 設計・施工の分離発注方式」を選択。財政難の川越市にこんな甘いことが許されるのだろうか? これは、TBS・テレビ朝日などの全国報道に焦って反対派住民・地権者を恫喝して沈静化させようという川合市長の思惑のみが先走った結果の表れなのだろう。当然のことながら、本紙の質問に対する新斎場建設準備室長の返答はシンドロモドロで答えにならなかった。こんなズサンな基本計画は、後述の本紙意見を参考に、最初からやり直すべきだ。行政素人市長には、もうお引き取り願いたい!

**現状の施設を利用して、最小限の経費で
最大限の効果をあげる火葬場建設のあるべき姿はこれだ!**

1・適正規模 6基 (実働5基+予備1基)
ごみ焼却炉 (公営) 並みのダイオキシン類排出量に抑えるため。

2・施設数 2施設

建設地域を分散して周辺住民の安全を図るとともに、利用する市民の利便性も考慮する。

3・適地

①「山蔭・谷間等地形的に人目にふれにくい場所」建設省・計画標準(案) 必然的に周辺民家は少ない。

② 住民合意が得やすい場所 時代が変わっても火葬場は「嫌悪施設No.1」。住民合意は最大の壁。

なお、市民から本紙によせられた投書の多くもほぼ同様の意見であることを付記しておく。

**最優先しないといけないのは、
住民の安全確保と信頼感の構築!**

福島第一原発事故を契機に、火葬場等の焼却系施設を整備するに際しては、何よりも住民の安全を図ることが求められるはずだ。
①排気筒を高め設置するなどして、排気ガスの遠方拡散を図る。②余裕を持った敷地に緩衝帯としての周辺緑地を厚めに配して、周辺への環境影響を緩和する。③住民との信頼感を構築して対話をする姿勢をもつ。」などを心掛けるべきだ。

川合市長が強引に火葬場事業を推進する真の理由とは何か?
障害児問題を冷たく突き放しても、強行したい
「葬儀関連ビジネス・火葬場の利権獲得」と、市民から非難の声が…

川合市長、あなたの行政指導は人への温もりを欠いている。あなたのしていることは「弱者への差別」だ。

反対地権者（以下、Nさんと呼ぶ）には、重度自閉症のご子息がいる。自閉症の子供を持つ両親の苦労は筆舌に尽くしがたく、砂を噛むような子育ての日々の連続で、Nさん夫婦は将来に対する不安から肉体的にも精神的にもボロボロになった時期があったという。そこから立ち直れたのは、両親がいなくなっても周囲が自閉症児を支えてくれる社会の仕組みを作って残してやれば良いという希望の実現だった。各施設に通い辛い辛い経験を反省材料に、自費によるフレキシブルな形での「障害児・障害者サポート施設（療育・保護者のサポート・作業所の複合施設）」の建設だった。そこへ突然降って湧いたような公約破りの川越市新斎場（火葬場）計画がNさんの思いを踏みにじった。（本紙HP「公開質問書」の公開質問十二項目を全市民が是非ご覧下さい。）

川合市長はNさんの尊い志を踏みにじる、本当の理由を川越34万全市民に説明するべきだ！

昨年九月二十八日、Nさんは、川合市長と面談した際に息子の障害、サポート施設の建設等、胸の思いを訴えたのだが、川合市長はNさんを冷たく突き放し、障害児・障害者に掛ける必死の思いを、冷やかに斬り捨てたのだ。怒ったNさんは、市長本人に対して用地交渉打ち切りを宣言し、新斎場建設準備室として将来的にも交渉をしないと声明した。にもかかわらず何故、「斎場用地」として拡張したい区域「周辺環境整備を進めたい区域」などと勝手にNさんの土地を無理やり取り込み、事業を推し進め悲しい弱者である障害児の夢を踏みにじるのか。

まさに、これは「弱者への差別」だ。弱い者を冷酷に

「障害児の夢を踏みにじる」市営火葬場建設の実態

反対地権者の真の反対理由「私の土地の活用は『障害児・障害者のサポート施設』の建設(重度自閉症の息子や苦しむ弱者のために)です！」

切り捨て、川合市長が強引に進めたいと焦っているものは、一体、何であるのか。新設火葬場をめぐる利権なのか。川越34万全市民に明瞭にわかり易く説明すべき義務がある。私たち市民は、次号の広報川越と七月二十二日開催予定の都市計画公聴会で明確な回答を待っている。

正当性を欠く市営火葬場建設は、障害児・障害者サポート施設に道を開けるべきだ！

もし、仮にNさんの構想が実現すれば、Nさんご夫婦亡き後のご子息に対する心配が軽減されるだけでなく、同じ悩みを持つ川越市内外の障害児家庭の負担が軽減され、地域社会にも貢献できるはず。政策変更理由の合理性を質した本紙の公開質問書に回答せずに、市民の質問から逃げ回る正当性を欠いた「公約破りの市営火葬場建設」は、「障害児・障害者サポート施設」に道を開くべきではないか。ごみ焼却炉（公営）の2倍のダイオキシン類を排出する川越市の新斎場建設計画は危険であり、2ヶ所に斎場を分離するべきは当然である。川合さん、あなたはいやしくも川越34万中核市のリーダーだ。軽率妄動は慎んでもらいたい。

市長や公共団体が、自分の利益を確保するために、気に入らない市民の意見を封じ込める権力を持ってしまったら、弱者のための表現の自由は無視されてしまふ。とくに誇りなき議員が存在する市政においてはなおさらだ。

行政調査新聞社

TEL 0499・2377・5431
FAX 0499・2377・5432
http://www.gyouseinews.com/